

NPO STYLE

number : 1

[茨城NPOセンター・ commons]

「実はNPOっていまだによく分からないんです。

でも、とてもやりがいのある仕事です。」……commonsスタッフ石川雅子さん

NPO STYLE

このNPOSTYLEのページでは、毎回さまざまなNPOの活動を私たちcommonsの記者の目を通して紹介していきます。茨城NPOセンターcommonsの発行する情報誌の役割として、団体のPRにとどまらず、各々の団体の現状や将来を正確に見据え、時には辛口の紹介もあえて行えるよう…本当のNPO支援という視点で捉えていきたいと考えています。

いままでNPOは主に「熱意」の点に偏って評価されてきました。しかし私たちは団体の体制や運営の目利きとなり、NPOの抱える課題や団体の企画力や新規性、プレゼンテーション能力、実現可能性、熱意、資金環境まで踏み込んで紹介したいと考えています。

また、取材対象とするNPOは、NPOの信用保証や寄付の文化を育てていくという視点から、立ち上がりの団体よりも、継続して活動を行っている団体を取り上げていきたいと考えています。

さて長くなりましたが、いよいよ第1回の団体紹介をしましょう。記念すべき第1回目は私たち「茨城NPOセンター・commons」です。まずは足元から、自己評価からのスタートです。

commonsの課題

事務局長の横田能洋(よしひろ)さんにお話を伺いました。

情報発信が遅れていること

理事の意識向上

真の豊かさを問う

以上の3点を今大きな課題をして考えており、それぞれの課題への取り組みとして以下の2点を検討中でした。

近い将来ホームページを充実させて、県内NPOのデータベース化する

理事研修を企画実施(平成13年2月予定)

真の豊かさとは？

3つ目の真の豊かさについて、スタッフの2人の話が印象的でした。いまいるcommonsの専従スタッフがどのような動機でcommonsで働くことになったのか、という話題から大きな変革の時代の流れの中でNPOが生まれて来たことが伺えます。

横田さんは障害者差別の現実を見る中で、現状追認ではなく社会を変える主体になりたい。非力なNPOを育て、強くしていきたい。そう思い、かつての職場を辞める決意をしてcommonsを立ち上げたそうです。もうひとりの石川雅子さんは、以前勤めていた職場では何かうまく言葉にできない限界を感じていた、そういう時たまたま横田さんの紹介でcommonsに出会い、commonsが障害者の支援などを行っている様子、さらにcommonsの事務を自分がやらなければどうにもならないという現実をみるにつれ、職員になることを決めたようです。

この2人の転機はそのまま、自己実現と選択肢の多様さをNPOが提供できうることの証明に思えます。commonsではバリアフリーのまちづくりコーディネーター、福祉医療関係の調査、講演、大学や専門学校の学生を県内NPOにインターンとして派遣するなど、活動および予算の拡大は著しく、求められる役割は確実に高まっています。しかし一方で、2人の専従スタッフにかかる負担も確実に増えています。このことはcommonsが行う各事業のリーダーにもいえることです。このような社会的ニーズに応えうる力をcommonsがもつには、また市民の力を発揮していくには、どれだけcommonsに賛同し、協力してくれる人がいるかにかかっているのです。

私たちが紹介しその課題をともに考えたいのは、NPO支援をするNPO・commonsではなくそれを支える21世紀の市民そのものだったように思えます。

(根本 真嗣)